

2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年2月10日

上場会社名	三菱製紙株式会社	上場取引所	東
コード番号	3864	URL	https://www.mpm.co.jp/
代表者 (役職名)	代表取締役社長	(氏名)	立藤 幸博
問合せ先責任者 (役職名)	執行役員経理部長	(氏名)	及川 浩典
四半期報告書提出予定日	2021年2月12日	配当支払開始予定日	—
四半期決算補足説明資料作成の有無	: 無		
四半期決算説明会開催の有無	: 無		

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績 (2020年4月1日～2020年12月31日)
(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	118,915	△18.6	△2,626	—	△2,226	—	△3,240	—
2020年3月期第3四半期	146,012	△4.3	737	—	1,108	—	△600	—

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 △2,054百万円(—%) 2020年3月期第3四半期 △134百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	△72.56	—
2020年3月期第3四半期	△13.45	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	220,909	58,254	26.4
2020年3月期	212,217	60,527	28.5

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 58,231百万円 2020年3月期 60,525百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
2021年3月期	—	0.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2021年3月期の連結業績予想 (2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	160,000	△17.8	△2,000	—	△1,000	—	△2,000	—	△44.78

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期3Q	44,741,433株	2020年3月期	44,741,433株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	83,614株	2020年3月期	82,401株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期3Q	44,658,566株	2020年3月期3Q	44,660,238株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計上の見積りの変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間は、新型コロナウイルス感染症の影響により日本経済および世界経済は厳しい状況が続きました。当社グループを取り巻く環境も、一部に需要の持ち直しが見られたものの、感染者数の急激な増加による非常事態宣言の再発出もあり、先行き予断を許さない状況にあります。このような状況下、印刷・情報用紙の需要減退に加え、画像出力用のイメージング分野も打撃を受けるなど、厳しい事業環境で推移いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の連結売上高は1,189億1千5百万円（前年同四半期比18.6%減）となりました。

損益面では、固定費削減などのコストダウンや原燃料価格安の効果はありましたが、生産販売数量の減少の影響が大きく、連結営業損失は26億2千6百万円（前年同四半期は連結営業利益7億3千7百万円）、連結経常損失は22億2千6百万円（前年同四半期は連結経常利益11億8百万円）となりました。親会社株主に帰属する四半期純損失は32億4千万円となりました。

このような状況下、当社グループは、事業運営のための感染防止策を取るとともに、需要動向に合わせた生産体制の整備を実施し、2年目に入った「新中期経営計画」（2019年4月～2022年3月）の3つの重点戦略、

- ① 王子グループとのアライアンスによる強固な経営基盤の確立
- ② 既存事業の再構築と充実
- ③ 新たな収益の柱の育成による事業基盤の多様化

に精力的に取り組む、基本方針である「新しいステージに立った事業基盤の強化と多様化」を進めています。

(紙・パルプ事業)

国内市場につきましては、印刷用紙、情報用紙ともに製品価格水準は維持しましたが、需要の減退に加え新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きく、販売数量、金額ともに減少しました。輸出につきましても販売数量、金額ともに減少しました。需要減退が想定以上に加速していることを受け、減産を継続し需給引き締めを図ってまいりました。

欧州子会社につきましては、コロナ禍の影響等を受け各主力製品の販売数量が減少するとともに需給関係も軟化し、加えて為替の影響もあり、販売金額は減少しました。

市販パルプは、低迷する市況環境の下、販売数量、金額ともに減少しました。

この結果、紙・パルプ事業全体の売上高は926億2千3百万円と、前年同四半期比15.8%減となりました。

営業損益は、前年同四半期の1億1千6百万円の利益から17億4千2百万円減少し、16億2千5百万円の損失となりました。

コロナ禍の影響による需要動向は、第1四半期末を底に回復傾向にありますが、長期的な需要減退を前倒しした形で、以前の水準に戻る可能性は低く、事業環境は厳しさを増しています。また、新型コロナウイルスの感染拡大は今なお続いており、紙需要の先行きについても予断を許さない状況にあります。

これに対し、引き続き需要動向に合わせた生産体制最適化と在庫水準適正化を進め価格水準の維持を図ってまいります。さらに、王子グループとの協業強化等により、物流費削減に取り組むとともに、晒クラフト紙や機能板紙の拡販、脱プラスチック事業としてのバリアコート紙の品揃え拡大などを進めて製品ポートフォリオの転換を加速し、早期に収益の安定化を目指してまいります。

(イメージング事業)

コロナ禍の影響は依然として大きく、世界各国で激減した旅行やイベントの回復は一部にとどまり、国内及び海外市場ともに、画像出力用途を中心とする写真感光材料やインクジェット用紙の需要は低迷して販売金額は減少しました。

この結果、イメージング事業全体の売上高は183億5千7百万円と、前年同四半期比27.1%減となりました。

営業損失は、前年同四半期の2億3千1百万円から、損失幅が17億8千7百万円拡大し、20億1千8百万円の損失となりました。

販売数量の減少、生産設備の稼働率低下によるコスト上昇などのマイナス要因が大きく、業務用途のインクジェット用紙の新規開拓、アルコール除菌液など感染症予防製品の販売、一時帰休の実施や固定費削減に努めましたが、カバーするには至りませんでした。

富士フイルム(株)とのアライアンスによる生産体制の効率化に取り組む一方で、販売体制の効率化を進め、世界各国の市場動向に柔軟に対応しながら、製品ラインアップの拡充と海外顧客との協業体制構築による販売力強化を推進し、収益の確保に取り組んでまいります。

(機能材事業)

機能材料につきましては、リライトメディアや建材用不織布が減少しましたが、水処理膜支持体やバッテリーセパレータ、エアフィルターが増加し、販売金額は増加しました。

化学紙につきましては、建築用途等でコロナ禍の影響を受け、主力の化粧板原紙やテープ原紙、壁紙用裏打紙等が減少し、販売金額は減少しました。

この結果、機能材事業全体の売上高は109億4千2百万円と、前年同四半期比10.6%減となりました。

営業利益は、前年同四半期の6億8千5百万円から2億7千7百万円増加し、9億6千3百万円となりました。

販売金額の減少はありましたが、固定費削減などのコストダウン効果や原燃料価格安により、前年同四半期に比べ増益となりました。

引き続き、水処理膜支持体の新規ユーザー獲得やMBR（膜分離活性汚泥法）膜用への展開、高耐熱のバッテリーセパレータの拡販、化粧板原紙やテープ原紙等の新規拡販とコストダウンに注力してまいります。

(倉庫・運輸事業)

倉庫・運輸事業の売上高は56億2千1百万円と、前年同四半期比7.4%減となりました。営業利益は前年同四半期の1億9百万円から6百万円減少し、1億2百万円となりました。

(その他)

工務関連子会社とスポーツ施設運営子会社の売上高減少等により、売上高は41億5百万円と、前年同四半期比30.8%減となりました。営業損益は前年同四半期の1億2百万円の利益から1億1千5百万円減少し、1千3百万円の損失となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産は、たな卸資産等の減少はありましたが、受取手形及び売掛金や現金及び預金等の増加により前連結会計年度末に比べ86億9千2百万円増加し、2,209億9百万円となりました。

負債は、有利子負債の増加等により前連結会計年度末に比べ109億6千6百万円増加し、1,626億5千5百万円となりました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等により前連結会計年度末に比べ22億7千3百万円減少し、582億5千4百万円となりました。

自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ2.1ポイント減少し、26.4%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期の連結業績予想につきましては、2020年11月12日に公表の業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日公表の「連結業績予想の修正及び配当予想の修正（無配）に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,260	12,748
受取手形及び売掛金	31,358	40,797
商品及び製品	30,138	25,324
仕掛品	7,066	7,501
原材料及び貯蔵品	11,278	11,866
その他	3,629	4,401
貸倒引当金	△157	△164
流動資産合計	92,576	102,475
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	24,459	23,545
機械装置及び運搬具(純額)	43,816	40,833
土地	21,898	21,846
建設仮勘定	467	1,193
その他(純額)	3,066	2,864
有形固定資産合計	93,708	90,283
無形固定資産		
その他	409	1,593
無形固定資産合計	409	1,593
投資その他の資産		
投資有価証券	15,763	18,313
その他	9,833	8,318
貸倒引当金	△74	△74
投資その他の資産合計	25,523	26,557
固定資産合計	119,641	118,434
資産合計	212,217	220,909

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	22,082	21,073
電子記録債務	3,934	3,741
短期借入金	64,267	65,414
コマーシャル・ペーパー	4,000	14,000
未払法人税等	431	196
その他	10,804	12,121
流動負債合計	105,519	116,546
固定負債		
長期借入金	33,495	32,358
退職給付に係る負債	9,423	9,458
資産除去債務	883	884
その他	2,366	3,408
固定負債合計	46,169	46,109
負債合計	151,689	162,655
純資産の部		
株主資本		
資本金	36,561	36,561
資本剰余金	8,555	8,555
利益剰余金	13,719	10,260
自己株式	△152	△152
株主資本合計	58,684	55,224
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,206	2,538
為替換算調整勘定	1,095	944
退職給付に係る調整累計額	△461	△476
その他の包括利益累計額合計	1,840	3,006
非支配株主持分	2	22
純資産合計	60,527	58,254
負債純資産合計	212,217	220,909

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	146,012	118,915
売上原価	124,282	103,231
売上総利益	21,730	15,684
販売費及び一般管理費	20,993	18,310
営業利益又は営業損失(△)	737	△2,626
営業外収益		
受取利息	40	28
受取配当金	454	484
持分法による投資利益	659	744
その他	390	352
営業外収益合計	1,545	1,610
営業外費用		
支払利息	756	567
為替差損	79	174
貸船に係る損失	—	257
その他	337	211
営業外費用合計	1,173	1,210
経常利益又は経常損失(△)	1,108	△2,226
特別利益		
固定資産処分益	7	12
投資有価証券売却益	116	6
その他	67	—
特別利益合計	191	19
特別損失		
固定資産処分損	585	356
減損損失	1,159	—
その他	135	131
特別損失合計	1,880	488
税金等調整前四半期純損失(△)	△580	△2,695
法人税等	79	525
四半期純損失(△)	△659	△3,220
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△58	19
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△600	△3,240

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純損失(△)	△659	△3,220
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	262	1,333
為替換算調整勘定	△385	△137
退職給付に係る調整額	671	△14
持分法適用会社に対する持分相当額	△23	△15
その他の包括利益合計	524	1,166
四半期包括利益	△134	△2,054
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△92	△2,074
非支配株主に係る四半期包括利益	△42	19

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

退職給付に係る会計処理における数理計算上の差異の費用処理年数について、従業員の平均残存勤務期間が短縮したため、第1四半期連結会計期間より費用処理年数を一部の海外連結子会社は9年から8年に変更しました。

この変更により、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は、それぞれ93百万円減少しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	紙・パル プ事業	イメー ジ ング事業	機能材 事業	倉庫・ 運輸事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	107,662	21,251	10,267	3,850	143,032	2,980	146,012	—	146,012
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,350	3,940	1,967	2,217	10,476	2,955	13,431	△13,431	—
計	110,013	25,191	12,235	6,068	153,509	5,935	159,444	△13,431	146,012
セグメント利益 又は損失(△)	116	△231	685	109	679	102	781	△44	737

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、エンジニアリング業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△44百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△0百万円、セグメント間取引消去△43百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「紙・パルプ事業」セグメントにおいて、八戸工場4号抄紙機が運転休止から1年を経過し具体的な再稼働計画が立っていないことから、減損損失1,159百万円を特別損失に計上しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	紙・パル プ事業	イメー ジ ング事業	機能材 事業	倉庫・ 運輸事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	88,788	16,034	9,197	3,570	117,590	1,325	118,915	—	118,915
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,835	2,323	1,744	2,051	9,954	2,780	12,734	△12,734	—
計	92,623	18,357	10,942	5,621	127,544	4,105	131,650	△12,734	118,915
セグメント利益 又は損失(△)	△1,625	△2,018	963	102	△2,578	△13	△2,591	△34	△2,626

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、エンジニアリング業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△34百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△0百万円、セグメント間取引消去△34百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。